

【目指す学校像】 笑顔あふれる学校 ～子供ど真ん中～
 【目指す児童・生徒像】 ○何事も自分ごととして捉え、自ら学びに向かい表現を楽しめる児童 ○リーダーシップを身に付け、自分も他の人も尊重し、大切にできる児童 ○基本的な生活習慣を身に付け、運動に親しみ、心身ともに活力に満ちた児童
 【目指す教師像】 ○児童の学びに火をつける教師 ○一人一人を大切に、児童に寄り添える教師 ○組織の一員としての意識をもち、職層に応じた使命と役割を果たせる教師 ○服務規律を重んじ、児童・保護者の信頼に応える教師 ○ゆとりをもった精神状態で指導にあたる教師

前年度までの学校経営上の成果と課題【成果】・社会とつながるプロジェクトの確立 ・端末を中心としたICTの効果的な活用方法の確立 ・地域人材の発掘 ・在校時間の短縮
 （箇条書きで簡潔に）【課題】・自分ごととして物事を捉える意識の醸成 ・身に付けさせたい資質・能力を意識した授業実践 ・児童が自ら思考し、豊かに表現する力の育成 ・自己有用感を高める指導の充実 ・心身ともにゆとりをもって児童とじっくり対面するための働き方改革

3つの施策	中期経営目標 (施策の内容)	「取組・努力」の評価基準(学校・教職員の姿勢、取組状況)	評定	3学期 評定	実態や改善に向けた意見	「成果」の評価基準(児童・生徒の変容)	評定	3学期 評定	実態や改善に向けた意見
小中一貫教育を柱とした特色ある教育の推進	①小中一貫教育の推進	・「9年間のゴール」を見据え小学校と中学校の教育をつなぐ努力をしている。 ・乗り入れ授業を3教科で実施している。 ・地域人材を活用した効果的な授業を実践している。 ・地域、保護者の方を活用することで学習が理解が深まった。	4 3 2 1	3.1	小中間で温度差を感じられる場面があった。児童が直接関わることに關しては、年度当初の指針に沿って計画的に進め、担当者同士のやり取りの中で変更しないようにする。	・ゴールに向かった自身の力が身に付いた児童 75% ・中学進学イメージを具体的に描けた児童 80% ・地域の協力やかかわりの中で、児童が豊かに学んでいる 80% ・保護者、地域が参画する授業が充実している 80%	4 3 2 1	3.4	9年間で育てたい児童・生徒像を小中合同会議で共有したことで、目標をもって指導にあたることができた。連携の良さがあるが、時間的負担間の軽減には工夫が必要である。
	②確かな学力の定着	・授業と朝学習、各種補習一体化と家庭学習の定着度の向上 ・指導と評価の一体化がされた授業を行い、確かな学力の定着を図っている。 ・児童が意欲をもって参加し、楽しくわかりやすい授業の工夫をしている。 ・3つの視点に沿ったユニバーサル・デザインによる授業を行っている。	4 3 2 1	3.2	書くことに苦手意識をもっている児童が多い。特に作文や自分の考えを書くことを苦手としている。少しずつでも、自分の言葉で書けるように、少ない字数から繰り返し書かせることで、少しでも書こうと取り組む児童が増えてきた。基本の学習を毎時間取り入れたことで、基礎力が上がってきた。	・学習習慣が以前より身につけてきた児童 75% ・学ぶ意欲が向上したと肯定的に答える児童 80% ・自己の能力にあった学習に主体的に取り組んでいる 75% ・授業が分かりやすいと肯定的に答える児童 80%	4 3 2 1	3.6	全体として学力の向上は見られているが、個人差が大きい。家庭学習の手引きを作成して配布しているが、家庭での協力があまり得られてない実態がある。引き続き、保護者会等を利用して、継続した声掛けをしていく必要がある。授業では、個別と集団のバランスを調整しながら、児童同士で学び合う学習活動を工夫した。
	③特色のある教育の推進	・相手意識をもった自律した行動が選択できる児童の育成を図る。 ・「コグトレ」を継続することで、意欲的に学習に参加する児童を育成する。 ・多様な他者とのつながり、協働的な学習環境を積極的に作っている。 ・授業だけではできない多様な学習の場を児童に提供した。	4 3 2 1	3.3	むさしのリーダーシップは指導しているが、児童の定着までには至っていないように感じる。各学級・学年ごとで月の重点項目を設定して強化するものも有効ではないか。	・リーダーシップが身に付き、正しい行動選択できるようになった児童 80% ・コグトレをすることで、勉強がわかりやすくなった児童 70% ・他者とつながることで、自分の考えがより深まった 85% ・学びに対する意欲が向上したと肯定的に答える児童 80%	4 3 2 1	3.3	特別支援学級の児童にもわかりやすいワードがあるので、定着させやすい。他者との関わりでは、事前学習で学んだり調べたりしたことを実際に見に行ったり、話を聞かせてもらうことで学びが深まった。
	④新しい課題に対応した教育の推進	・生活習慣の改善・充実を図る活動を推進している。 ・情報活用能力の育成計画に沿って指導している。 ・図書館を活用した探究的学習を行っている。 ・児童が活字に触れる機会を意図的に創造している。	4 3 2 1	3	学校図書館を活用した探究的学習の推進という部分では、課題が多と感じる。学校図書館を活用した授業を実施するには、探究学習をするための書籍が十分ではないので、市図書館と連携していく必要がある。	・グッドモーニング60分ができている児童 80% ・情報モラルを守って、正しく端末を使用することができた 95% ・図書館を使って調べ学習など探究的な学習をしている 50% ・一月月平均3～5冊の本を読んでいる 70%	4 3 2 1	2.9	スライドに自分の意見や調べたことをまとめる活動を取り入れたことで、児童の文章を書くことへの意識の変化を感じた。引き続き、児童が意欲をもって取り組める活動を推進していく。
	⑤人権教育の推進と道徳教育の充実	・人権感覚を磨き些細なことも見逃さないようにしている。 ・はむらの道徳科授業指針に沿って授業を行っている。 ・学校は自他を大切に心身の育成をしている。 ・校内研究を生かし、振り返りを活用し児童の成長を見取る。	4 3 2 1	3.8	思いやりのある行動や言葉遣いを意識させ、行動化させることが難しかった。道徳の授業中心に自分ごと化して考える時間を設けることで日々の経験や自己の行いを振り返るようにした。	・困ったことがあったときは、大人に相談することができる 100% ・正しい言葉遣いを意識して生活することができる 80% ・道徳の授業では、自分の考えをもつことができる 100% ・振り返りノートに自分ごと化できた記述をしている 95%	4 3 2 1	3	道徳を校内研究でやったことで教員も児童も意識が変わった。行動化できるように継続して指導していきたい。学級担任の枠を超えて、副担任が道徳授業を行うのは有効であった。次年度は拡充していく。
多様なニーズに応じた教育の推進	⑥特別支援教育の推進	・なかよし学級の活動の幅を広げ、インクルーシブ教育を推進する。 ・障害者理解教育を全学級で取り組む。 ・個別指導計画に沿った支援を行っている。 ・校内委員会を中心に共通理解のもと全職員で支援する。	4 3 2 1	3.4	なかよし学級の交流を積極的に行うことで、児童間にも教員間にもコミュニケーションの時間が多く取れてよかった。日頃から交流することで、行事にもスムーズに参加することができた。	・学年や学級に関係なく、誰とでも仲良く過ごすことができる 80% ・なかよし学級制の活動は楽しい 100% ・郊外においても障害のある人に親切にできる 95% ・困っている友達がいたら進んで声をかけることができる 95%	4 3 2 1	3.9	各学級に課題が大きい児童がいるが、それについては担任が抱えて保護者にアプローチしていることが多い。校内委員会を中心に、共通理解を図り、適正就学へと導けるように組織的に対応していく必要がある。
	⑦児童・生徒が楽しく通える学校の実現	・日常場面を活用し、むさしのリーダーシップを推進する。 ・児童の自己有用感が高まり、前向きに取り組む姿がある。 ・気になる様子の児童に対し、すぐに声をかけることができる。 ・児童が自分ごととして参加する道徳授業を実践する。	4 3 2 1	3.4	むさしのリーダーシップの用語を普段の指導から積極的に使用することで、自分ごと化して行動できる児童がふえきた。暴言や手が出てしまう児童に対する情緒面の指導時間を確保する工夫をする。	・自分が学級や学校のために役立っていると感じる 70% ・友達のことを大切にしている 90% ・困ったときに相談できる大人が校内に3人以上いる 60% ・道徳の授業では、自分の考えを持つことができる。 80%	4 3 2 1	3.5	副担任の先生とも連携をしっかりと取り合うことで、児童の様子がよりよく見られるようになった。「SOSカード」の取り組みが定着してきて、児童に中間報告もさせてことで、児童と教員間の距離が縮まった。
健やかな成長を支える教育環境の整備	⑧児童・生徒理解に基づく指導体制の構築	・児童のよさを発見したり、共有することができる。 ・いつでも気兼ねなく相談できる教職員が3人以上いる。 ・心にも時間にもゆとりをもって働くことができる。 ・体罰及び不適切な指導ゼロ	4 3 2 1	3.5	一人で抱え込まないよう日頃から児童の様子を共有しているが、勤務内でやり切ることには正直難しい。介助員や支援員と打ち合わせをする時間が確保できるとより効果的な支援ができると思う。	・友達のよさやがんばりを見つけられることができる 90% ・学校にはいつでも相談できる大人がいる 100% ・教職員は笑顔で働いている。 90% ・体罰調査 0件	4 3 2 1	4	ふれあい月間などの活動を通して、互いのよさを言葉で伝え合える活動を推進していく。教員がゆとりをもって働くことで、児童が接しやすい状況を作っていく。
	⑨OJTを中心とした校内研修体制の確立	・OJTによって自己の成長が見られる。 ・OJTの指導者側となることで、さらに見識が深めることができる。 ・楽しく分かりやすい授業のために工夫する努力をしている。 ・小グループを活用することで、気兼ねなく相談できる。	4 3 2 1	3.2	成績の評価の仕方や、道徳の指導のあり方など勉強になったことが多くあった。OJTの中で、日頃の先生方の授業の教材研究の仕方や悩みなどについて話し合える場があるとさらに良い。	・学級経営が安定していて、児童が落ち着いている。 90% ・学校は、児童に確かな学力を身に付けられるよう努力している。 80% ・学校は、意欲的に学習できるよう、授業を工夫している。 80% ・教職員がゆとりをもって働いているのが分かる 80%	4 3 2 1	4	基礎的な授業に関することなど、意外と共有する場面がない気がする。授業展開の校内研修も行っていく。研修を長期休業期間中にも設定し、多くの教員が参加できるようにする。
	⑩保護者や地域住民の協力・参画	・地域人材を活用することでより充実した活動をしている。 ・学校の様子を積極的に伝え、教育活動の公開に努めている。 ・HPの適時更新し、活動をブログで発信している。 ・学習支援を積極的に保護者・地域に依頼している。	4 3 2 1	3.2	保護者の活用については、保護者が参加しやすい環境を構築して、引き続き依頼をしていく。リニューアルされたHPを全教員が活用できるようにしていく。	・保護者、地域の人と勉強するのが楽しい 95% ・保護者、地域と勉強することでよりよく分かった 95% ・学校の話や毎日常話を毎日家族と話をする 80% ・家庭教育への支援を適切に行う努力をしている。 80%	4 3 2 1	2.5	CSの人財バンクを活用し、学校の協力者を少しずつ増やしていく。積極的に地域・保護者へ声を掛けることで、何度も学校に足を運んでいただき、実際の様子を見てもらう機会を増やす。
学校の特色	読書活動や図書館の利用及び学校の特色や独自性のある取組	・振り返りを言語化させることで書字への抵抗が減った。 ・自分の考えを発表する場面を意図的に増やす授業の実践 ・図書館を有効活用した言語活動を行っている ・グッドモーニング60分を機会あるごとに啓発している。	4 3 2 1	3.1	各学級によって発表の仕方や話型など先生方の指導で異なることがある。研修などを通して、学校で6年間を通して統一した指導ができるようにしていきたい。	・文字を書くことが楽しい 70% ・自分の思いを伝えることが楽しい 80% ・図書館では、読書以外の勉強をしている 70% ・登校60分前に起きることができた児童 80%	4 3 2 1	2.1	どの教科でも算数と同じように振り返りを書かせることによって児童の書く力や表現力が高まった。引き続き言葉の力に着目し、言葉で表現する活動を意図的に増やし、書字に対する抵抗を減らしていく。